

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	社会福祉事務に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	3	1	1	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	111地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	社会福祉協議会の活動助成、福祉健康フェアの更なる周知、社会福祉法人に対する監査の適切な実施。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	市社会福祉協議会の効率・効果的運営を支援し、地域福祉の推進を図る。実行委員を3名追加し、福祉健康フェアの内容を充実していく。
②①に基づく取り組み結果	社会福祉協議会活動への補助金を交付した。福祉健康フェアの来場者数が増加した。社会福祉法人指導監査計画に基づき、監査指導を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	乳幼児から障がいのある人、高齢者までの全ての市民	意図(対象をどうするのか)	誰もが安心して住み続けられるまちづくりを進めていく。
②事務事業の概要	地域福祉の中心となる役割を担う社会福祉協議会への活動助成。被災者の適切な支援や福祉健康フェアの開催。社会福祉法人に対する監査の実施。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	地域におけるつながりの希薄化、高齢者や生活困窮者などの社会的孤立の拡大、地域福祉の担い手の高齢化やNPOの拡大等による状況の変化。異常気象による自然災害の増加。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	社会福祉協議会補助金の交付、災害見舞金や原爆被爆者見舞金の支出、福祉健康フェアの開催、社会福祉法人の監査の実施(社会福祉協議会助成に係る詳細は別添参考資料のとおり)。				
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠
	i ボランティア登録数	1,397	1,317	1,226	人 業務取得
	ii 災害見舞金	160	7	6	件 業務取得
	iii 福祉健康フェア来場者数	1,600	2,100	2,200	人 業務取得
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算
事業費(千円)	70,736	51,259	金額(千円)	内容	51,664
	国支出金(千円)		637	報酬、保険料等	
	県支出金(千円)	1,250	46,411	負担金、補助金	
	市債その他(千円)	21,050	3,475	災害見舞金等	100
	一般財源(千円)	48,436	736	保健福祉基金積立金	51,564

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	地域福祉を推進していく社会福祉協議会との連携が課題。少子高齢化等の影響による福祉の担い手が不足。自然災害等による被災者支援の増加。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	2普通	
③上記評価の理由	少子高齢化をはじめとした、本市の地域を取り巻く様々な課題に向け、ボランティアの育成や相談支援等、地域福祉活動の充実強化を図っていく必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	民生委員・児童委員に要する経費	会計	款	項	目	多額 経費
		一般	3	1	1	
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	111地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	欠員が生じている地区民生委員児童委員協議会の解消を図り、円滑な相談活動が行えるよう支援していく。	③平成28年度に取組む改革・改善内容	平成28年12月の一斉改選に向けて、地区社会福祉協議会や地区自治会とともに手不足の解消に取り組んでいく。
②①に基づく取組み結果	民生委員児童委員活動に対する補助金を交付するとともに、欠員を解消(5人を委嘱)した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	民生委員児童委員及び主任児童委員	意図(対象をどうするのか)	支援を必要とする地域住民に円滑な相談活動を行えるよう支援する。
②事務事業の概要	民生委員児童委員及び主任児童委員の調査、相談活動を行うための活動費を補助する。(会長会、理事会、研修部会、地区定例会、活動支援、研修会、各種調査等)			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	高齢化、核家族化の進行に伴って援助を必要とする世帯の増加が見込まれ、これからいっそう民生委員児童委員の果たす役割が大きくなってきている。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	民生委員児童委員協議会補助金の支出。民生委員推薦会を1回開催し、民生委員児童委員5名の推薦を行った(相談・支援活動等の詳細は別添参考資料のとおり)。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠	
	i	民生委員・児童委員実数(各年度4月1日現在)	152	152	152	人 業務取得
	ii	相談・支援件数	1,735	1,433	1,383	件 業務取得
iii						
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	6,332	6,325	金額(千円)	内容	6,512	
	国支出金(千円)		41	推薦会報酬		
	県支出金(千円)	456	456	民生委員報償	471	
	市債その他(千円)		1,430	協議会補助金		
	一般財源(千円)	5,876	5,869		6,041	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	ひとり暮らし高齢者や生活困窮者の増加、子育て支援の拡充など多種多様な課題に対し、委員の負担が重くなってきており、民生委員児童委員及び主任児童委員へのフォローが課題。				
②評価	i 市関与の妥当性	2普通	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	民生委員児童委員及び主任児童委員は、厚生労働大臣による委嘱により法に定められた職務を遂行する必要があるため。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	平成27年度事業費の状況(単位:千円)				
	計画事業費	予算額		決算額	
②計画に対する事業実績		当初		H26からの繰越	
		H26⇒27繰越			
③達成状況		補正		現年分	
		流用・充当			
④未完了・非着手の理由	平成28年度への繰越額(単位:千円)				

平成28年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	バリアフリー化施設整備助成事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	3	1	1	○
政策	11誰もが健康に暮らせる生涯福祉社会をつくります	担当課室	社会福祉課			
施策	111地域で支えあう福祉社会の形成	担当課室長	高橋 徹			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	H26年度の東武新鎌ヶ谷駅に引き続き、東武鎌ヶ谷駅の内方線付き点状ブロック敷設に対する補助を行う。	③平成28年度に取り組む改革・改善内容	内方線付き点状ブロックの敷設が未だの駅について、鉄道事業者に意向を確認する。
②①に基づく取り組み結果	東武鎌ヶ谷駅の内方線付き点状ブロック敷設を確認し、補助を行った。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	市内の各駅	意図(対象をどうするのか)	視覚障がい者の安全安心な移動円滑化が図られる。
②事務事業の概要	視覚障がい者等の駅ホーム下への転落を防ぐため、内方線付き点状ブロックの敷設を行う事業者に補助を行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	鉄道駅のバリアフリー化の推進に基づき、国、事業者、自治体が事業費の3分の1ずつ負担して駅舎のバリアフリー化を進めていく必要がある。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成27年度の事業の成果	東武野田線鎌ヶ谷駅ホーム(上り線、下り線)に内方線付き点状ブロックが敷設され、視覚障がい者等の転落の防止が図られた。					
②成果を表す指標	指標名称	平成25年度	平成26年度	平成27年度	算定根拠	
	i	バリアフリー化が図られた駅	2	1	1	駅 業務取得
	ii					
	iii					
③事務事業のコスト	平成26年度決算	平成27年度決算	平成27年度決算(事業費)の主な内訳		平成28年度予算	
事業費(千円)	4,667	4,667	金額(千円)	内容		
国支出金(千円)			4,667	補助金		
県支出金(千円)						
市債その他(千円)						
一般財源(千円)	4,667	4,667				

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	内方線付き点状ブロックの敷設は利用者1万人以上の駅が対象となっているため、対象から漏れた駅が課題。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	内方線付き点状ブロックが未整備の駅(新京成電鉄くぬぎ山駅)が残っているため。それ以外の駅については、全てバリアフリー対応済みである。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成27年度の計画	補助金の支出	平成27年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	補助金の支出	4,667	4,667	当初	4,667	4,667	H26からの繰越
				補正			現年分
③達成状況	完了	流用・充当					
④未完了・非着手の理由		平成28年度への繰越額(単位:千円)					